

琵琶湖流域でのモニタリング実施状況アンケート調査結果

1. アンケートの目的

琵琶湖の環境保全に関する国、滋賀県、研究機関及び大学等で調査、研究、実験及び改善事業効果検証等のモニタリング調査に関連した研究者・行政機関に、そのモニタリング内容についてアンケートを実施した。

2. アンケートの対象機関

各学会の公表論文やインターネットでの検索により、「琵琶湖の環境に関する調査、研究、実験及び事業効果のためのモニタリング調査を実施している研究者及び機関を対象とした。

表1 対象とした機関一覧

	アンケート対象機関名	分野
国土交通省	琵琶湖河川事務所河川環境課	水質・底質
林 野 庁	近畿中国森林管理局滋賀森林管理署	森林
農 水 省	近畿農政局滋賀農政事務所	農地
環 境 省	近畿地方環境事務所	水質・底質・生物
	生物多様性センター	底生生物
滋 賀 県	琵琶湖環境部琵琶湖再生課	水質
	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター	水質解析・生物・魚類
	滋賀県琵琶湖博物館	水質・生物
	滋賀県森林センター	森林
	滋賀県農業技術振興センター	農地
	滋賀県畜産技術振興センター	畜産
	滋賀県水産試験場	固有魚・外来魚
財団法人	琵琶湖・淀川水質保全機構(Biyo センター)	水質浄化
大 学	京大大学生態学研究センター	生態系
	京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻	水質汚濁機構
	京都大学大学院工学研究科流域圏総合環境質研究センター	水質管理
	京都大学大学院農学研究科生物資源	森林
	京都大学大学院農学研究科地域環境	地域環境
	滋賀大学教育学部	環境モニタリング
	滋賀県立大学環境科学部環境生態学科	水質
	龍谷大学理工学部	水質、底泥
	龍谷大学社会学部	地域環境

3. アンケート調査票

琵琶湖の環境保全に関する調査、研究、実験及び改善事業効果検証等のモニタリングに関するアンケートを次ページに示す。

琵琶湖の環境保全に関する調査、研究、実験 及び改善事業効果検証等のモニタリングに 関するアンケート調査のお願い

国土交通省では、琵琶湖の総合保全について、「健全な琵琶湖の次世代への継承」を基本理念に平成11年3月に関係省庁が共同で取りまとめた「琵琶湖の総合的な保全のための計画調査」に基づき、関係省庁、関係自治体等の協力のもと、総合保全のための事業及び連携の取組を推進しています。

このアンケートは、琵琶湖の環境保全に関する国、滋賀県、研究機関及び大学で調査、研究、実験及び改善事業効果検証等のモニタリング調査に携わっておられる研究者・行政機関の皆様これまでの活動内容、特にモニタリングの実施状況（実施期間、頻度、項目等）について確認を行い、今後の琵琶湖の保全に向けた取組及びその評価指標、進捗管理指標の検討・選定を進めていく上での参考とさせていただくことを目的として実施するものです。

アンケート調査の対象者とさせていただきましたのは、各学会の公表論文やインターネットでの検索により、「琵琶湖の環境に関する調査、研究、実験及び事業効果のためのモニタリング調査を実施している研究者及び機関」として選ばせていただきました。

なお、本調査の実施につきましては、国土交通省が調査を委託しました（株）建設技術研究所が担当しており、滋賀県の協力のもと実施しております。アンケート結果に関して国土交通省および滋賀県よりご連絡さしあげることがございますが、ご了承いただきますようお願い申し上げます。

ご多忙のところ誠に恐れ入りますが、本アンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

平成22年8月

国土交通省 都市・地域整備局 都市・地域政策課

広域都市圏整備室 青島、梶本

〒100-8918 東京都千代田区霞が関2-1-3

TEL : 03-5253-8399 FAX : 03-5253-1586

本アンケート調査についてご不明な点がございましたら、本調査を委託している（株）建設技術研究所の下記担当者までお問い合わせください。

（株）建設技術研究所 東京本社

「琵琶湖アンケート調査に関する事務局」 担当：込山、富岡

〒330-0071 さいたま市浦和区上木崎1-14-6

TEL 048(835)3726 FAX 048(835)3774

受付時間は、土、日、祝を除く10時～17時

ご記入いただきましたアンケート等は、同封の返信用封筒に入れ、**9月15日(水)**までにご返送くださいますようお願いいたします。

《アンケート対象とする調査、研究、実験及び事業評価検証等の概要》

【対象とする調査、研究、実験及び事業効果検証のためのモニタリング調査の実施期間】

本アンケートの対象とする調査、研究、実験及び事業効果検証等のためのモニタリング調査は、単年度であれば2005年以降に実施したものを、また2年以上経年的に実施している場合は2000年以降のものとします。

また、単年調査であれば、2回/年以上モニタリング（計測あるいは観測）しているものを対象とします。年1回のモニタリング調査でも継続して2年以上実施しているものは対象とします。

【対象地域】

対象は琵琶湖集水域での調査、研究、実験及びデータ整理とします。

【対象内容例】

＜水質保全関連（水環境関連）＞

- ・ 定期的な調査（琵琶湖湖内あるいは流入河川等の水質調査・底質調査・植物プランクトン調査等）
- ・ 水質改善対策等の実験、研究（水質浄化施設の効果把握実験・水質浄化対策の研究の効果検証実験・水質改善事業の追跡調査等）
- ・ 統計データの把握（生活排水対策、畜産排水対策、農業排水対策の実施数・実施面積）

＜水源かん養関連＞

- ・ 森林や田畑（農地）の保水機能に関する調査、研究（土壌保水量調査・流出物質調査・流出水量・減水深調査等）
- ・ 森林や田畑（農地）の地下水位に関する調査、研究
- ・ 森林や田畑（農地）の水質浄化機能に関する研究
- ・ 統計データの把握（森林整備、農地整備、雨水浸透施設等の実施数・実施面積）

＜自然的環境・景観関連＞

- ・ 湖内の魚類に関する調査（特定種の生育追跡調査・魚の種類や数に関する経年変化調査・外来魚の種類や数に関する調査）
- ・ 湖辺域でのヨシ原等の植生帯の現況と経年での変遷についての調査
- ・ 湖内及び湖辺域での生物地調査（水生生物、昆虫、魚、動物調査）
- ・ 琵琶湖に生息する特定魚の産卵場所等の調査
- ・ 内湖、ため池での生物調査
- ・ 琵琶湖周辺でのビオトープの現状あるいは経年変化の調査
- ・ 自然環境保全のための実施事業の効果把握調査（追跡調査）
- ・ 統計データの把握（ヨシ原、河畔林、自然再生事業等の実施数・実施面積）

【備考】

- ・ 複数のモニタリング調査を実施している場合は、それぞれについてご記入ください。
- ・ モニタリング調査の概要に関する資料がありましたら、添付してください。

《琵琶湖の環境保全に関する調査、研究、実験及び改善事業効果検証等の

モニタリングに関するアンケート調査》

1. モニタリング実施機関概要

名称		
住所		
部門・課		
連絡先	TEL	
	FAX	
	Mail	
担当者		

2. モニタリング調査内容

実施 (研究・調査) 名称		
調査分類		①研究 ②実験 ③現況把握 ④対策 ⑤効果検証 ⑥統計データ ⑦その他
対象分野		①水質保全 ②水源涵養 ③自然的環境、景観 ④その他
調査場所		
実施の目的		
具体的な実施内容		
実施開始年及び期間		
モニタリング実施内容	実施項目 (対象指標)	
	実施頻度	
	実施方法	
	実施人数	
モニタリング結果 (データ) の蓄積年数		
モニタリング結果の概要		
現時点で分 かったこと 及び課題等	効果	
	課題	
今後の予定 (継続・改 善)	2020 年までの 予定	
	2015 年までの 予定	
今までの発表論文等		
琵琶湖のモニタリングデータ のデータベース化への協力に ついての意見		
その他、今後の管理指標とし て望ましい指標 (分かりやす い指標) は何だと考えますか。		

4. アンケート調査結果概要

9月30日現在で回答を得られたアンケートの調査結果を表2に整理した。

表2 モニタリング調査期間へのアンケート調査結果の概要

分類	目的	モニタリング実施内容			データ蓄積年数	今後のモニタリングの継続予定	今後の管理指標として望ましい指標	実施名(研究・調査名)	
		実施項目(指標)	実施頻度	実施方法					
水質保全	①	水質形成における琵琶湖北湖と塩津湾との相互影響機構の解明	流速、クロロフィルa、栄養塩を中心とした水質	1回/月、48時間連続調査	定点観測、採水分析、現場計測機器による測定	3年6ヶ月	既に終了している。	クロロフィルa、栄養塩類、水温等	湖沼に及ぼす湖湾と主湖盆の相互影響に関する調査(京都大学)
	②	びわ湖の水質の現状把握	水温、電気伝導度、クロロフィルa、DOの鉛直分布	1回/月	調査艇による移動観測(10~15地点)	14年	現在と同じく、毎月1回の調査を予定(2015年まで)	水温、DO飽和度	定期観測(滋賀大学)
	③	びわ湖の水質の時間変化の把握	水温、電気伝導度、濁度、クロロフィルa、DO、流向・流速	10分毎の連続観測	調査艇の係留による観測	約12年(水温) 約5年(その他項目)	現在の観測を継続予定(2015年まで)	水温、DO飽和度	自記連続観測(滋賀大学)
	④	琵琶湖におけるセタジミを用いたPOPsモニタリング手法の有用性の検討	POPs濃度、水温、pH、DO、SS及びVSS(調査時)	平成17年度、平成19年度に各1回	試料採取後、高分解性GC/MSを用いてPOPs濃度を測定	1年10ヶ月	5年後に調査を行う予定	生物種と数	琵琶湖でのシジミへのPOPs濃縮機構に関する研究(京都大学)
	⑤	河川管理者として河川現況把握のため定期的に琵琶湖における水質を把握する。	透明度、pH、DO、BOD、COD、SS、大腸菌群数、T-N、NH4-N、NO2-N、NO3-N、無機態窒素、有機態窒素、T-P、PO4-P、Cl、クロロフィルa、COD、TOC、健康項目、要監視項目	定期調査・水質調査とも 月1回	採水・分析、現場計測機器による計測	45年	継続	—	琵琶湖内での水質調査(琵琶湖河川事務所)
	⑥	湖沼環境の保全の観点から、難分解性有機物を踏まえた湖沼の水質汚濁メカニズムの解明により、琵琶湖等をモデルとして、湖沼の水質保全対策について、対策の有効性、課題、経済性等の評価を行い、難分解性有機物の削減の必要性の検討、効果的な湖沼水質保全対策を明らかにする。	COD _{Mn} 、D-COD _{Mn} 、P-COD _{Mn} 、TOC、D-TOC、P-TOC、BOD、SS、一般細菌、全菌数、分子量分画による連続有機炭素測定/同時分析、pH、EC、TN、D-TN、TP、D-TP、クロロフィルa、植物プランクトン、クロロフィル蛍光、内部生産量(光一光合成曲線法、炭素安定同位体法)	不定期(四季)	採水・分析、現場計測機器による計測	平成20年2月~平成22年8月	既に終了している。	—	H19~22年度琵琶湖等湖沼水質保全対策高度化推進調査(環境省)
	⑦	「代掻き・田植期に発生する濁水」による環境への負荷を、水田地帯を利用して減少させる技術について検討する。	SS、T-N、T-P、流量	—	—	3年	無し	—	水田等を活用した浄化技術確立調査(近畿農政局)
	⑧	国として安定的な作物生産と良好な水環境の維持を図るため、我が国の食料供給基盤である国営土地改良事業地区を核とした広域農業地域の水質状況を監視することを目的として実施。	pH、BOD、COD、SS、DO、T-N、T-P、EC、D-COD、NO ₃ -N、NH ₄ -N、PO ₄ -P、Zn、Cd	4回/年	採水は、「JIS K 0094-1994(工業用水・工業排水の試料採取方法)」に準ずる方法により実施し、分析は、「JIS K 0102-1998(工場排水試験方法)」の定めるところにより実施。	5年	未定	—	水環境情報調査(近畿農政局)
	⑨	国営土地改良施設を核とした広域農業地域の基幹水利施設において、農業用水資源の水質状況を把握し、定期的観測による監視を行うことにより、農業生産の安心、安全を確保するとともに、水環境の良好な維持に資することを目的とする。	pH、BOD、COD、SS、DO、EC、T-N、T-P、NO ₃ -N、NO ₂ -N、4-t-オクチルフェノール、ニルフェノール、フタル酸 ²⁻ -2-エチルキシル、カドミウム	3回/年	採水は、「JIS K 0094-1994(工業用水・工業排水の試料採取方法)」に準ずる方法により実施し、分析は、「JIS K 0102-1998(工場排水試験方法)」の定めるところにより実施。	5年	未定	—	農業用水資源環境基礎調査(近畿農政局)

分類	目的	モニタリング実施内容			データ蓄積年数	今後のモニタリングの継続予定	今後の管理指標として望ましい指標	実施名(研究・調査名)	
		実施項目(指標)	実施頻度	実施方法					
水質保全	⑩	琵琶湖の水質汚濁に面源負荷が及ぼす影響やその汚濁メカニズムを解明し、面源負荷を定量的に把握するモデルを構築する基礎資料とするため、各土地利用形態における水質の調査を実施し、得られたデータの整理ならびに既存データを加味した汚濁負荷原単位の算出を行うことを目的とする。	SS, COD, DCOD, T-N, D-N, T-P, D-P, TOC, 流向流速	実施年度により異なる	採水・分析	平成18年度～平成21年度	未定	—	流出水対策推進モデル計画策定調査(滋賀県)
	⑪	水質汚濁防止法に基づく公共用水域の水質汚濁状況の常時監視	別添測定計画のとおり	1回/年～1回/月	採水・分析	昭和54年以降	継続	—	公共用水域水質測定調査(滋賀県)
	⑫	水質浄化法の一つである土壌浸透浄化法について、実験センターに設置している土壌浄化実験施設に一定量通水し、水質浄化性能や施設の維持管理等の基礎データを収集	SS, COD, D-COD, DOC, T-P, D-TP, PO ₄ -P, T-N, D-TN, DO, 農薬類(H19年度)	2月に1回程度	採水後分析	2006年度以降(2005年以前は、国土交通省調査を受託)	無し	—	土壌浄化実験(琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター)
	⑬	実験センターの実験水は、主に一級河川葉山川から取水、その他の農業排水路から取水している。月1回水質状況をモニタリング。	COD, T-P, T-N, SS, pH	月1回	採水後水質分析	9年(農業排水路は、2009年度まで8年間)	無し	—	実験センター水質・底質調査(琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター)
水源かん養(水質保全)	⑭	農業流域における地表水・地下水を統合した水理・水文モデルを構築することにより、水環境の解析を行うこと	各種気象項目、地下水位、地下水温、DO、EC、硝酸、アンモニア	4週間毎	水位計による自動観測、現場計測機による計測(DO、EC)、採水した試料の水質分析	気象データ:5年 地下水データ:4年	2011年3月末に申請期間の終了	—	地域水系ネットワークの水理・環境工学的モデル化とその管理最適化手法の構築(京都大学)
水源かん養	⑮	流域の森林が、琵琶湖に対してどのような水源かん養機能を有しているか、科学的根拠に基づき定量化の検討	降水量、樹冠通過雨、樹幹流の観測、量水堰による渓流水量の観測、それぞれの水質測定	通年	雨量計や水位計による自動計測、採水・水質分析	12年(1999～)	2012年まで継続予定	—	琵琶湖の水源を守る森林づくりの検討(森林センター)
自然環境・景観	⑯	琵琶湖周辺で産卵・成育する魚類を保護するため、洪水期前について自然の水位変動を踏まえた弾力的な水位操作を行うための判断及び効果把握のため。	コイ・フナ類の産着卵数、産卵基質	3～7月、各調査地点1回/3日(但し、各年により差異がある)	人力による産着卵数計測	1年(高島市新旭町饗庭) 6年(長浜市湖北町延勝寺) 6年(高島市新旭町針江) 4年(平成21年度未現在)(草津市新浜町)	未定	コイ・フナ類の個体数	環境に配慮した瀬田川洗堰の試行操作(琵琶湖河川事務所)
	⑰	湖辺で産卵・成育する魚類を保護するため、琵琶湖と琵琶湖湿地奥部とを繋ぐ試験的取り組みを実施。	仔稚魚調査	4～8月、各調査地点1回/週(但し、各年により差異がある)	トラップ・タモ網・金魚網による採取	6年(高島市新旭町針江) 4年(平成21年度未現在)(高島市新旭町深溝)	既に終了している。	コイ・フナ類の個体数	琵琶湖湖岸域の環境修復(琵琶湖河川事務所)
	⑱	水口頭首工改修工事後における生態系調査を実施し、生態系の把握および施工による影響を解析する。	魚類、植物、鳥類	3回(6月、7月、10月)	魚類:投網、タモ網等 植物:踏査 鳥類:ラインセンサス	4年	無し	—	水口頭首工モニタリング調査(近畿農政局)
	⑲	ダム改修工事を実施するにあたり、自然環境に及ぼす影響を把握・解析し、適切な保全対策を実施することで、環境への影響を低減させることを目的とした。	猛禽類調査(平成13年度～21年度) 植物調査(平成14年度)	猛禽類調査:月1回 植物調査:年1回(10月)	猛禽類調査:定点観測、ラインセンサス 植物調査:踏査	9年	無し	—	野洲川ダムモニタリング調査(近畿農政局)

分類	目的	モニタリング実施内容			データ蓄積年数	今後のモニタリングの継続予定	今後の管理指標として望ましい指標	実施名（研究・調査名）	
		実施項目（指標）	実施頻度	実施方法					
自然環境・ 景観	⑳	国営野洲川沿岸土地改良事業に基づき新築された石部頭首工の魚道における魚類の遡上調査を行い、魚道機能の検証を行うとともに、頭首工周辺の鳥類調査も実施し、頭首工周辺の鳥類の分布状況についても把握する。	魚類および鳥類（鳥類は平成19年度のみ実施）	魚類調査：7回/年 鳥類調査：4回/年	魚類調査：定置網、電気ショックカー、タモ網 鳥類調査：定点調査、ルートセンサス	4年	無し	—	石部頭首工モニタリング調査（近畿農政局）
	21	水質保全対策事業で導入された循環かんがい施設・浄化型幹線排水路・浄化池等の水質保全効果及び環境保全型農業による低投入型農業の展開と一体的に行う浅水代掻き・止水かんがい等の用排水路管理等の農地系面源負荷の軽減対策の効果を検証し、この効果を効率的に発揮させるための整備・管理手法について検討する。	水位、流量、水質（水温、pH、EC、DO、SS、T-N、T-P、各態窒素、各態リン、各種イオン、TOC）、気象（雨量、日射、風速、気温、相対湿度、水温）	1回/週	採水・分析、現場計測器による測定	3年	無し	—	環境負荷軽減水管理技術確立調査（近畿農政局）
	22	農村地域に侵入した外来水生植物が、土地改良施設の機能等に及ぼしている影響（障害）の実態から、外来水生植物を排除するための物理・生理学的な未然侵入防止並びに防除対策の検討及びその対策の一部実証と評価を行うとともに、これら対策結果等を踏まえた地区外来生物対策を提示する。	生息種、被害の詳細、障害対策（対策の具体的内容についてはモニタリング結果の概要参照）	—	—	3年	無し	—	外来生物対策指針策定調査（近畿農政局）
	23	国営土地改良事業の計画段階において、環境との調和への配慮を具体化するためには、事業施行予定地域及びその周辺の自然環境の現況把握が不可欠であり、既存情報の収集解析や不足する情報についての現地調査等が必要とされる。このため、本調査においては、生態系等の自然環境情報について、広域農業地域を対象に現地調査を実施し、データを蓄積することで、環境との調和に配慮した国営土地改良事業計画のための調査の効率化と質的向上を図ることを目的とした。	魚類、両生類、は虫類、貝類・甲殻類、昆虫類（水生昆虫）、ほ乳類、鳥類	2回（9月、11月）/年実施	タモ網、投網等	H14, H15, H19 の3年分	無し	—	生態系情報調査、生息環境情報調査（近畿農政局）
	24	琵琶湖の漁場環境の把握	定点における透明度、水深別の湖水温、DO、COD、N、P、塩化物イオン、ケイ酸、クロロフィル、プランクトン沈殿量、出現種および湖岸水温の測定	月1回	調査船による調査	大正4年度～	継続	—	琵琶湖定点定期観測（水産試験場）

分類	目的	モニタリング実施内容			データ蓄積年数	今後のモニタリングの継続予定	今後の管理指標として望ましい指標	実施名（研究・調査名）	
		実施項目（指標）	実施頻度	実施方法					
自然環境・ 景観	25	琵琶湖産アユの資源状況の把握	産卵数、ヒウオ採集数・体型、魚群数、漁獲量、漁獲体型	<ul style="list-style-type: none"> 産卵調査：産卵期間中5～6回（1回/2週） ヒウオ生息状況調査：10～12月（1回/月） 魚群分布調査：1～8月（1回/月）・漁獲状況調査：12～8月（1回/月） 	<ul style="list-style-type: none"> 河川踏査による産卵調査 調査船によるヒウオ採集、魚群分布調査 漁協聞き取りおよび標本採集による調査 	昭和26年度～	継続	—	アユ資源予測調査（水産試験場）
	26	滋賀県で実施している外来魚駆除事業の効果把握および今後の駆除計画の基礎データとする。	駆除事業におけるオオクチバス、ブルーギル捕獲量、体長組成	体長組成の測定：1回/月	年齢組成および捕獲量からの生息量推定	平成16年度～	継続	—	外来魚駆除効果の評価調査（水産試験場）
	27	漁獲量が著しく減少しているホンモロコの資源回復のための基礎データとする。	産卵調査：調査区域における産卵量、水位低下による干出割合、水温 伊庭内湖：産卵状況、稚魚採集、標識放流、餌料生物	産卵調査：産卵期間中1回/週 伊庭内湖：随時	産卵調査：産着卵の確認、計数 伊庭内湖：採集調査、標識放流調査、水質調査	平成18年度～	2011年まで継続予定（2015年まで）	—	ホンモロコ繁殖要因の解明研究（水産試験場）
	28	ニゴロブナ、ホンモロコ、セタシジミの適正な資源管理や効果的な栽培漁業推進の基礎資料とする	<ul style="list-style-type: none"> ニゴロブナ、ホンモロコ当歳魚資源尾数 セタシジミ体型組成、生息密度 	1回/年	標識放流調査、漁獲物標本調査	平成16年度～	2011年まで継続予定（2015年まで）	—	資源管理型漁業推進総合対策事業（水産試験場）
	29	ニゴロブナなどの産卵繁殖場として重要な水ヨシ帯が減少しており、その回復を図るために造成された水ヨシ帯の効果を把握する。 また、セタシジミ漁場を回復するために実施された砂地造成事業の効果を把握する。	ヨシ帯造成：コイ科魚類産卵量、出現する稚魚の種類、数 砂地造成：底質、水質、ベントス	ヨシ帯造成：産卵期間中随時 砂地造成：2回/年	ヨシ帯造成：産卵調査、稚魚採集調査 砂地造成：エクマンバージ採泥器による定点採集調査	平成17年度～	継続（2015年まで）	—	水産基盤整備事業（造成ヨシ帯、砂地造成効果調査）（水産試験場）
	30	森林の資源量、生物種数等の把握	森林の資源量	5年毎	現地調査	過去2回分	発注を林野庁での一括発注に振り替えて今後も調査は継続（2020年まで）	<ul style="list-style-type: none"> 流域を面的に評価する必要があるため、面で評価が可能な指標が望ましいと考える。（例：要間伐森林における間伐面積等） また、上記と併せて可能な範囲で点を抽出し、間伐の効果等の検証が望まれる。（例：下層植生の植被率等） 	森林資源モニタリング調査（林野庁）

分類	目的	モニタリング実施内容			データ蓄積年数	今後のモニタリングの継続予定	今後の管理指標として望ましい指標	実施名（研究・調査名）	
		実施項目（指標）	実施頻度	実施方法					
その他	31	循環かんがい地区内において生息が確認された外来種「スクミリンゴガイ」について、地区内での拡散により生息域ネットワークへの影響が懸念されることから、拡散防止に向けた対策の検討を行うための基礎資料とする。	貝及び卵塊の数、水位、水温、気温 各水路毎に4つのブロックを設定し、捕獲方法（卵を除去する、しない）を変える。	1回/週	捕獲、現地観察、タモ網、捕獲器	7ヶ月	—	卵塊の個体数	平成 21 年度都道府県営事業地区計画「滋賀東部」委託事業（近畿農政局）
	32	魚道機能付き排水路を有する水田を対象に、ほ場水管理の実態把握、水管理のあり方の検討を行う。	取水量、排水量、湛水深、COD、T-N、T-P、SS、魚類の種類と数	遡上調査：2回/年程度。調査により異なる。	自記水位計による連続観測、カゴ網等による捕獲、現地観察、聞き取り調査等	3年	既に終了している。	魚道を管理するための用水量の把握。	計画基礎諸元調査（琵琶湖東部地区）（近畿農政局）
	33	森林の資源量の統計データ	森林の資源量、面積等の統計データ	5年毎に各地域を更新	—	毎年度発行	継続 (2020年まで)	—	事業統計書（林野庁）

